

H ostelling Magazine

12/25
Winter
2015

旅行中はふしぎと、
”生きてるなあ”って
実感できるんです。


テレビ朝日アナウンサー 竹内 由恵さん

プランニング段階から、
もう”旅スイッチ”が
入っちゃいます。

テレビ朝日アナウンサー 大木 優紀さん

Hostelling Magazine × 地球の歩き方 www.arukikata.co.jp

これが夢にまで見たマチュピチュ！
空中都市の絶景に感動！

 ペルー マチュピチュ/クスコ/聖なる谷

■おいしい!かわいい!ペルーの魅力

Youth Hostel Pick up

出会いと発見あふれる
瀬戸内で“しまステイ”

小豆島オリーブユースホステル

Event Information

■2015 WINTER

全国のイベント情報満載

付録 国内 200ヶ所以上のユースホステル情報を網羅

ユースホステルマップ



この冊子は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。

“旅先選び”のための情報誌



今、こんな旅がしてみたい!

長年にわたり旅行者に旅する魅力を伝えつづけている『地球の歩き方』が、すべての海外旅行ファンに向け、2016年に「訪れてほしい場所」、「体験してほしい旅スタイル」を提案する一冊です。次は、どこに旅にしようか迷っている方、必読!



2016年に行くべき旅先30カ所を公開!
今年、どの国・地域が注目を集めそうか。楽しい旅の最前線を、豊富なビジュアルとともにお伝えする本誌の大人気企画。



あらゆる角度から旅先探しをサポート!
今号では絶景に“辿り着くまでに会えるもの”の詳細レポートや、旅先のスーパーマーケット特集など、気になる記事を満載!

永久保存版! 旅に使える裏ワザ☆

出発前に覚えておくと便利な旅のTIPSをご紹介します。旅慣れた人も知らない上級テクニックを多数掲載!



ダイヤモンド・セレクト 2016年1月号 定価890円/ダイヤモンド社

本誌ペルー特集で旅心を刺激されたら、こちらもCheck!

Hostelling Magazine ホステリングマガジン

今号の特集を読んで、ペルーへと出かけたいと思ったら、ぜひ読んでおきたい4冊をピックアップ! 南米の歴史や大自然、いまだに謎に包まれた遺跡の秘密にいたるまで、旅立ちの前に知っておくと旅の面白さが倍増すること間違いなし!

全国の書店
または、オンライン書店
にて好評発売中!



地球の歩き方 B23 ペルー編
基本情報から詳細な土地案内まで、圧倒的情報量のガイドブック。迷ったらこの1冊を買って後悔はない。マチュピチュの別冊マップ付き。
定価 2,160 円



世界遺産 ナスカの地上絵 完全ガイド
主要な「地上絵」を、豊富な写真と共に1点1点解説し、その作成方法や由来など不思議な謎に迫る1冊。また、実際に見学する際の「セサナ遊覧飛行」を誌上で完全再現。
定価 1,728 円



世界遺産 マチュピチュ 完全ガイド
マチュピチュ遺跡内の観光ルートと観光ポイントを、エリアごとに完全紹介。現地ガイドの説明を聞いているような、詳細な解説を収録している。定価 1,620 円



世界の絶景アルバム 101 南米・カリブの旅
『地球の歩き方』が膨大な取材の中から、南米・カリブの絶景ポイント＆本当に訪れるべき心震える場所をセレクトし約250点にも及ぶ豊富な美しい写真を集めた1冊。定価 1,026 円



Vision

Principle and Philosophy

Inclusivity

世界を超えて

Learning and Understanding

考えよう

Sustainability

僕らと子ども達の未来のことを

日本ユースホステル協会はユースホステルのビジョンに基づき、日本国内にユースホステルを設置・運営すると共に、国際ユースホステル連盟や各国のユースホステル協会と協調し、知見を広める「旅」を促進する活動を行っています。

Line up

インタビュー..... P02

テレビ朝日アナウンサー

大木優紀さん

「プランニング段階から、もう“旅スイッチ”が入っちゃいます。」

竹内由恵さん

「旅行中はふしぎと、“生きてるなあ”って実感できるんです。」

Youth Hostel Pick up..... P06

出会いと発見あふれる

瀬戸内で“しまステイ”

小豆島オリーブユースホステル

Hosteling Magazine × 地球の歩き方..... P10

これが夢にまで見たマチュピチュ!

空中都市の絶景に感動!

ペルー

マチュピチュ/クスコ/聖なる谷

■おいしい!かわいい!ペルーの魅力

Event Information..... P14

※本紙の情報は2015年11月1日現在のものです。変更になる場合がありますので、お出かけの前に現地にお確かめください。
発行所 一般財団法人日本ユースホステル協会編集・発行人 水野 幸
TEL (03) 5738-0546
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1
国立オリンピック記念青少年総合センター内
※本誌掲載記事の無断転載を禁じます。
制作・印刷製本/サンメッセ株式会社



＋ プランニング段階から、
もう旅スイッチが入っちゃいます。

＋
大木優紀

＋ 旅行中はふしぎと、
“生きてるなあ”って実感できるんです。

＋
竹内由恵

まだ知らない世界への憧れ。日常を離れて、異なる文化や伝統に触れるときめき。
旅にはさまざまな魅力が秘められていると同時に、知らず知らずのうちに自分を成長させる、特別な何かがある。

今回は、職場でも出身大学も先輩・後輩関係という、テレビ朝日アナウンサーのお二人に、
学生時代から現在までの旅のエピソードとこだわり、旅の持つ魅力について、語っていただきました。



大学4年の夏、女友達4人と ユースホステルをフル活用して、 日本縦断を成し遂げました。

大学4年生の時、女友達4人と一緒に日本縦断に挑戦したんです。学生ですから当然、超の付く低予算企画。札幌をスタート地点にして、ユースホステルとJR青春18きっぷをフル活用しながら、日本海側を「南下」しました。太平洋側だと誘惑も多く、何かあったら挫折して、安易に東京に戻ってしまいそうなので。根拠はありませんが、スティックなイメージの日本海側を選びました(笑)。日本縦断中には各地のユースホステルを利用しましたよ。ただ、衣類も最小限のものしか持って行っていなかったので、洗濯物がおいつかなくなって…。ユースホステルはどこも洗濯機が使えたので、本当に助かりました。大部屋いっぱい洗濯物を干したり、キッチンを使わせてもらって自炊をしたり、施設をフル活用させてもらいました。そんな若さゆえの肝っ玉チャレンジでしたが、新潟で花火大会を見物したり、京都では天橋立YHでくつろいだりと、なかなかの充実っぷりで、ゴールに決めた屋久島に着いたときは、とても感動しました。



日本縦断旅行のひとつコマ



パリで印象に残ったYHは、 髭が似合うナイスミドルのオーナー。 クロワッサンも食べ放題でした。

2008年・大学4年の7月に、フランスのボランティア・キャンプに参加しました。3週間パリにひとりで滞在しましたが、ユースホステルにもずいぶんお世話になりました。パリのユースホステルは、アパートマンをそのままベースにしている場所もあって、お風呂もアンティーク調のバスタブだったり、4人でシェアするタイプのベッドルームも小物までかわいくて。一般的なユースホステルのイメージを良い意味で裏切ってくれる感動的なものでした。今でも印象に残っているのが、髭をたくわえたナイスミドルのマネージャー(ペアレント)がやっていたユースホステル。小さくてレトロなエレベーターでガタンゴトンと客室に上がるんですが、趣のある宿で。さらに、とてもうれしかったというか、ありがたかったのが、朝食に焼きたてのクロワッサンと、アツアツのホットショコラ(ココア)を用意していただけたこと。それはそれはおいしかったです。人からは、「海外ボランティアや一人旅なんてイメージと違う」とか、「よく決心したね」とか言われますが、父親の仕事の関係で、幼少期からニューヨーク郊外で育ったりしてるからか、あまり「外国だから特別」といった感覚が少ないんでしょうね。



Profile

大木 優紀

慶應義塾大学経済学部卒 2003年4月1日テレビ朝日入社
現在、産休中

海外発のニュースを読むときも その土地の人々と接した実体験が、 言葉に深みを与えてくれます。

最近、私の旅にける情熱も周囲に大分理解・浸透してきて、周りにハラハラされることも減りましたが、それでも生後数ヶ月から娘を連れて、どんどん海外に出かけて行くのには、皆さん驚かれますね。“いかに子どもをうまくあやして人様にご迷惑をおかけしないか”というも旅の重要なテーマで、飛行機に乗るときも各種あやし系グッズを完全装備して臨みます。それを当日まで見せずにおいて、機内でぐずりそうな気配がしてきた時にサッと取り出すんです。他にも子どもの生活リズムに合わせて長距離のフライトでは夜便を選んだり、いろいろ対策を練ってから旅に出るので、これまで一度も娘を大



学生時代、ホームステイ先での記念写真。

泣きさせた経験はありません。そんな準備も含めて、私は旅行のプランニングが実際の旅以上に大好き。計画段階からワクワクのスイッチが入っちゃうんです。実際の旅行は“答え合わせ”に似ています。計画中に想像していた名所旧跡だったり観光スポットを実際に訪ねて、「ああやっぱり!」「へえー意外!」など、検証・確認感覚で楽しむんです。よく、おすすめのスポットは?と訊かれるんですけど、原風景のように強烈に記憶に残っているのはスペイン・トレドの街並みです。幻想的でノスタルジックで、思わず郷愁を誘われちゃいます。食事もほんとに美味しいところはいっぱいありますが、これは美味!と思わず声が出ちゃうくらいだったのはローマで食べたカルボナーラ!…ショートパスタが絶品でした。

ニュース原稿を読んでいるときも、自分が訪れた場所や国の出来事には、自然と思いがこもっちゃうものですね。原稿としては特別変わったところがなくても、『あ、あの場所でこんな事件が起こってるんだ』とか。災害が起きたことを伝えながら、住んでいる人の顔が浮かんだり。本当は行ったことのない国や土地に対しても、そういう人としての思いをさりげなくお伝えできれば、理想なんでしょうけど。ただ、旅をした経験が今の仕事に幅や深みを与えてくれているのは確かだと思います。とりわけ海外での経験から得られるものは、無数にあると思います。実際、旅をしてみると世界は広いし、心が深呼吸できるような「時と場所」が、まだまだたくさん隠されているように思えてきます。もちろんそれは人それぞれに違う場所や体験なのでしょうが、現地の人とふれあうことで、自然と心が解放されたり、のびのびと五感を働かせるような瞬間に出会えることは、本当に貴重な体験だと思うんです。

一人旅は、特別な感覚を育んでくれる。
宿を決めるのも、ご飯を選ぶのも、
主体的に「生きてる実感」がわくんです。

家族みんなが旅行好きなこともあって、家族の思い出と旅行の思い出が記憶の中でひとつに重なっていて、旅は懐かしいような、いとおしいような感覚にさせられます。中でも思い出深いスポットは、小学6年生の時に訪れた、アメリカのグランド・キャニオン。写真や映像を見たことはありましたが、実際にその場に立ってみると、やはり圧巻。言葉を失って、悠久の時の流れや、壮大な天地の造形にただ呑み込まれているような、不思議な感覚に包まれました。小学2年生から中学生くらいまでを過ごしたニューヨーク近郊は、いわば第二の故郷。大人になっても(マンハッタンに、ですが)繰り返し訪れる大好きな街です。

日本で暮らしていると、何もかも用意してあると言うか、何不自由なくお膳立てしてくれるところがあって、それはそれで便利で楽なシステムなんですけど、時々逆に不自由な気もして。海外の一人旅は、何もかも自分で決めないとご飯も食べられないし、宿に泊まることもできない。主体性を持って、生活のひとつひとつに積極的に取り組まなければいけないので、すごく“生きてる”って実感がわいてくるんです。

そんな風に、自ら道を切り拓いていく旅の経験は、自信に



大学の夏休みを利用して参加した、フランスのボランティアキャンプでのスナップ。

もつながっている気がします。だから私にとっての旅は、気分転換やストレス発散という意味合いだけではなく、生きていく上での自信を育んでくれて、「生きていくチカラ」を充電するための時間。大切な感覚や本能を呼び覚ましてくれるかけがえのないものです。

※紹介されているエピソードは当時のもので、現在のものとは異なる場合があります。



Profile

竹内 由恵

慶應義塾大学法学部卒 2008年4月1日テレビ朝日入社
『スーパーJチャンネル』
(月～木)午後4時50分～7時 (金)午後3時50分～7時
『やべっちF.C.』(日)深夜0時10分～0時45分
※地域により放送時間が異なります。